

令和8年度 海田町立海田西中学校 研究推進計画

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 海田西中学校区研究主題

主体的に学びを深める児童・生徒の育成
～「問い」を起点とした対話的な授業実践・改善を通して～

(2) 主題設定の理由

本校の生徒は、提示された課題に対して前向きに取り組むことができる。昨年度は、HR学習として、国語・数学・英語の3教科に絞った学習課題に取り組んだ。各教科で学習した単元の復習になるようにサイクルを工夫した。一方で、自らが課題を見付け、目標や課題意識をもち、自ら進んで粘り強く学習に取り組んでいる生徒は全体的に少なく、令和7年度に実施した標準学力調査の、「家で、週に何日くらい勉強しますか」に対して肯定的に回答（ほぼ毎日、もしくは4～5日）した生徒の割合は、第1学年の生徒が41.8%（全国平均59.5%）、第2学年の生徒が37.1%（全国平均51.6%）であった。また、同調査の、「家で授業の予習や復習をしていますか」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合は、第1学年で40.5%（全国平均57.4%）、第2学年で32.3%（全国平均46.9%）であった。これらのことから、学習意欲に課題が見られ、自ら進んで学習できる環境を整えるために、西中授業システムやHR学習などの取組をさらに充実させる必要がある。

また、令和7年度に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、「自分には良いところがあると思いますか。」という質問に対して、肯定的な回答が80.0%（全国▲6.2）と、自己肯定感の低い生徒が少なくない。学習の基盤となる生徒指導の4機能を意識した教育活動の取組の継続が必要である。

一方、昨年度重点を置いた「コミュニケーション力」については、標準学力調査i-checkにおいて、「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。」に対して、標準スコアは、1学年50.6、2学年52.2と、話し合いの場面において、自分の考えを伝える力が身に付きつつあると考える。昨年度取り入れた「西中グループワーク」の枠組みを継続して取り組んでいき、対話的な学習において、自分の考えをもち、更新し、深めていく授業づくりを目指し、土台を強固なものにする必要があると考える。

令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語の正答率が61.0%（県+6.0、全国+6.7）、数学の正答率が59%（県+12、全国+10.7）であり、県平均・全国平均の数値より高いものの、重点課題として国語は同音異義語や同訓異字など、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を問う領域の正答率が33.8%、数学は図形領域の問題の正答率が52.1%と、基礎的・基本的な知識・技能の面での学力定着に伸びしろがあり、その土台を強固なものにすることで思考・判断・表現の領域の向上が見込まれる。

このことを踏まえ、学校教育目標の「ていねいさ 続けること」のもと、確かな学力の定着に向け、教えるべきことはしっかり教え、生徒の思考を促す深い学びの実現に向けた授業の在り方を再構築していく。また、昨年度まで重点の置いていた「振り返り」については取組を継続しつつ、「コミュニケーション力」を高めていくための教育研究を進めていく。「見通し」「協働」「振り返り」の3つの視点を意識し、3つの中で、「コミュニケーション力」に重点を置き、より効果的に学びを達成できるように、研究を進める。特に、対話を通して考えを深めたり、広げたりすることができる「問い」の設定に着目し、そのデータを積み重ね、本質的な問いによる授業改善を図りながら、生徒の対話的な学びに資する授業展開を研究し、共有していく。また、その基盤となる自己肯定感・自己有用感等の醸成が必要不可欠である。生徒指導の4機能を意識しながら、自己肯定感等の向上を図り、コミュニケーション力の資質向上に資するよう教育活動を展開していく必要がある。

(3) 研究仮説

仲間とともに主体的に学びを深めていくペア学習やグループ学習の質を更に高め、生徒の思考が単元を通してつながりのあるものにしていくために、「見通し（主体性）」「協働（コミュニケーション能力）」「振り返り（メタ認知）」の3つの視点を意識した授業づくりを行う。具体的には、単元の最終で評価する内容、つまり、単元を通して付けたい力（生徒のゴールの姿）を明確にし、そこから逆向き設計で単元を構想し、必要な学習活動を設定する。単元が始まる前に、生徒と教師が学びの方向性を共有し、生徒の思考に意味をもたせ、次の学びにつながっていくようにする。学びが充実するように、学習課題が生徒の生活に結びついたものにし、学ぶ必然性を少しでも高

め、主体的に学習に取り組めるような単元についても引き続き開発を進める。その上で、今年度重点を置く「コミュニケーション力（協働）」では、個人思考、ペア・グループトーク、全体共有の基本的な手法をベースにしながら、西中グループワークを全体で取り組み、日々の学習活動の中でコミュニケーション力を向上させるための時間を確保していく。また、グループワークで取り組む「問い」に着目し、生徒が対話したくなるような問いの設定、またそれらの解に近づいていくための指導の手立てはどうあるべきかを研修を通して校内に波及させていく。同時に、コミュニケーションの土台となる自己肯定感・自己有用感等の醸成および向上のために、①自己決定の場の設定、②承認ボードの活用、③自己理解・他者理解のための学習活動を取り入れていく。こうした自己肯定感・自己有用感等の醸成および向上を進めていくことによって、協働的な学習の中で自信をもって自分の考えを発信し、より対話的で深い学びに進んでいくのではないかと、というのが本校の研究仮説である。

これまで取り組んできた HR での学習などについても、生徒の学習の基礎を培うとともに、更なる目標を持たせ、挑戦する心を育てるために、継続させる。

これらの取組を継続すれば、生徒は目標達成のために思考を働かせ続け、自ら学び、主体的で深い学びが実現することができるであろう。

(4) 研究内容

- ア 生徒の思考を軸としたバックワードデザインによる単元構成の見直しと創造
- イ 「本質的な問い」による授業改善
- ウ ペア・グループワークの在り方およびその手法
- エ 家庭学習ノートの取組により、基礎を定着させるとともに学習習慣を身に付けさせる指導の充実（SHR 内に位置づけ、家庭学習とつなげる指導）
- オ 読書活動や作文投稿などを活用した、生徒の書く意欲を引き出す取組の充実と工夫
- カ ICT を効果的に活用した授業づくり

(5) 検証の指標

- ア 各種学力調査等の結果
（全国学力・学習状況調査、標準学力調査等）
- イ 授業及び生活に関する意識調査（生徒、教師）
- ウ 授業評価（教師）

2 校内研修計画

- ア 研究主題に基づいた理論研修の実施
- イ 学期に一度、研究授業を実施
- ウ 本校の授業スタイルの確立、共有化を図るための研修会の実施

4月 校内研修（西中グループワークについて） → 6月 校内研究授業①
 → 7月 校内研究授業② → 8月 理論研修（講師招へい） → 10月 校内研究授業③
 → 3月 まとめ・仮説検証

3 検証計画

- (1) 各種学力調査の結果・誤答分析
- (2) 学校評価アンケートの実施（生徒、保護者）
- (3) 授業に対するアンケートを実施（生徒、教職員）年度当初・3学期 クロス集計

4 研究公開等の予定

公開予定日	令和9年 10月
内容	西中校区公開研究会

令和8年度 海田町立海田西中学校 研究構想図

<海田西中学校区研究構想図>

主体的に学びを深める児童・生徒の育成
～「問い」を起点とした対話的な授業実践・改善を通して～

